

Colaboração do
Povo Japonês

国連人口基金 UNFPA モザンビーク事務所 日本政府拠出プロジェクトニュースレター

ISSUE 1 - MAY 2021



プロジェクトの背景:

カーボデルガード州では、気候変動の影響、新型コロナウイルス感染症の拡大、相次ぐ武装勢力による攻撃や武力衝突により、約70万人が避難を強いられ、国内避難民となっています。モザンビーク北部の人道危機により、女性と少女は非常に脆弱な立場に置かれてきましたが、更なる治安の悪化により、女性と少女の安全と健康がより一層懸念されています。

プロジェクト最新ニュース:

- 本年3月首都マプトにて、日本大使館、UNFPA、他の国連機関と共に、プロジェクトの合同開始式を開催。
- 日本人国連ボランティアが4月始めより勤務開始。
- カーボデルガード州でのサービス提供拡大のため、母子保健専門看護師の採用プロセスを開始。
- 女性と少女3000人をサポートする尊厳キット*を調達中。
*石鹸・再利用可能な生理用ナプキン・笛をはじめ必要なアイテムが入っている、女性・少女の健康・衛生・安全をサポートするためのセット
- リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)のサービス強化・拡大のための医療用品キット、救急車、リプロダクティブ・ヘルスキット等、各種調達プロセスを開始。
- 本案件の現地パートナー団体を確定し、パートナー団体の本案件活動計画も完成。

プロジェクト基本情報

プロジェクトの目的:

モザンビーク北部の16万人を超える女性と少女（国内避難民とホストコミュニティ両方）を対象に、包括的なリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）とジェンダーに基づく暴力の予防・対応サービスの強化・拡大を目指します。保健システムの強化と能力開発を通して、緊急時のリプロダクティブ・ヘルスとジェンダーに基づく暴力への対応サービス、さらに早期復興のための介入を支援していきます。

実施期間:

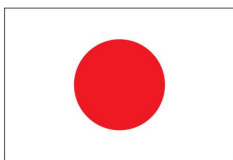
2021年4月 — 2022年2月23日

供与額: 1,000,936米ドル

対象地域: モザンビーク北部のカーボデルガード州、ニアッサ州、ナンブラ州

“カーボデルガード州での武力衝突に大きく影響されている女性と少女が、日本政府の支援によって、強く必要とされる生命を守るケアを受けることが可能となります。”

— アンドレア・ワイナーUNFPAモザンビーク事務所代表



Colaboração do
Povo Japonês



UNFPAの プライオリティ

ジェンダーに基づく暴力の
予防・対応

家族計画、救急産科・新生児
治療を含めた、生命を守る
リプロダクティブ・ヘルス
(性と生殖に関する健康)
予防・対応サービスの
強化・拡大

新型コロナウイルスへの対応
女性・少女への二次影響の軽減

モザンビーク北部 国内避難民の状況

**DTM Baseline Report - Round 11*



5州にまたがる国内避難民 **697,538人***

そのうち女性 **200,777人**



出産可能年齢(15 - 49歳)の女性 **160,621人**



国内避難民の **18,972人**が妊娠中
そのうち1カ月以内に **2,108人**が出産見込み



今後3カ月間、妊娠中の女性 **949人**が出産時に
生命に関わる合併症にかかる危険性あり



木村駐モザンビーク特命全権大使と
ワイナーUNFPAモザンビーク事務所
代表、本年3月マプトでの合同開始式
にて。



カーボデルガード州でUNFPAが支援
する"女性に優しいスペース"では、
避難民の女性たちがマスクの縫製方
法を習い、地域で販売したものが収
入の足しとなり、コロナ拡大防止に
も一役買っています。



カーボデルガード州で、
尊厳キットを受取る女性。

UNFPA Mozambiqueをフォロー:



@UNFPAMocambique



@UNFPAMozambique



UNFPA Mozambique



<https://mozambique.unfpa.org>